巻頭インタビュー

人の可能性を信じて、人に好奇心を持って ～認知症ケアの現場から～

「人として当たり前」の暮らしを大事に認知症ケアの実践をする和田行男さん。
昨年話題となった「注文をまちがえる料理店」（認知症の方がスタッフとして働くレストラン）の
発起人でもある和田さんに、活動に込めた思いを伺いました。

（株）大起エンゼルヘルプ取締役・介護福祉士

和田 行男（わだ ゆきお）さん

高知県出身。1987年国鉄職員から福祉の業界へ転身し、特別養護老人ホームなどで勤務。東京都で初めてのグループホームの施設長となり、その実践がテレビなどで紹介される。現在は大起エンゼルヘルプでグループホーム・デイサービス・小規模多機能ホームなどを統括しながら全国で講演活動などを行っている。

―和田さんが福祉に携わることになったきっかけをお聞かせください。

国鉄に勤めていた1982年に、列車で旅がしたいという障害者の声を実現しようと、東京都北区で最初に「障害者列車ひまわり号」が運行され、僕も京都でボランティアとして関わり、初めて障害のある人達とお会いしたんです。その時は病院関係者を中心に運営していたので、つい「これは鉄道に関わる僕らの仕事やないか」と言ってしまい事務局長をやることになり、その運動にのめりこんでいきました。国鉄民営化の時、辞める決断をしました。それまでとは違う人生の大きな転換期であり、人と関わる仕事をしたいと思い、運動を通じ知り合った社会福祉法人の方に、福祉の業界に入れてくださいとお願いに行きました。

最初「お年寄りに優しくしなさい」と言われることに疑問を感じました。何に優しさを感じるかは人それぞれですし、移動してもらおうと優しい関わり方をしても、その方に立つ力や歩く力が無ければできません。何より本人が立ちたいと思わないと、立とうとしないのです。僕は元々鉄道マンで理工系の人間ですから、ケアには「優しさ」という抽象的な形容だけじゃなく、ちゃんと理屈があると感じました。また、差別がない業界というイメージを持っていたのに、認知症というだけでひどい状態に置かれていて「福祉よ、お前もか」と、しょうもない正義感みたいなものがありました。更に、福祉の業界はこれからだとも感じ「この仕事は天職かも」と真面目に思いこみました。

―実際のケアの現場はどうでしたか。

入りたての頃、ある認知症の方が自らの排せつ物を口にしたのです。そのストレートな行動に、すごいなーって涙がボロボロ出て感動しました。僕らは無意識に自分をコントロールしてしまうのに、脳が病気になったことは悲しいことだけれど、先入観なく思ったことをストレートに出せる、それがものすごく新鮮でした。

1年ほど経って、認知症の方30人程のフロアを担当していた頃、朝5時に起きて、起床と排せつの介助を7時の配膳までに終えるのですが、ある日寝坊して6時に起きてしまって「えらいこっちゃ、皆さんお願いします！」という僕の悲壮な感じが出ていたのでしょう。普段ベッドからの起き上がりや着替えの介助に時間がかかる方もスムーズに動いてくれ、椅子まで並べてくれて、7時に間に合ったんです。人は通じるものだと思いました。僕には誰の目も「あんたから見て私はおかしなことするだろ？でもな、私もあんたと同じ人間やからな」そう言っているように見えてきました。

嫌なことをされて怒る、理由が分からなくて騒ぐ、それを認知症の人がすると、異常な行動となる。「人として当たり前」の反応を大事にできていないとすごく思いました。その1年は自分の中の認知症の方と向き合う入り口みたいなものを創ってくれ、本当にいろんなことを教わりました。

年数を重ね「人として当たり前」の難しさも分かってきて、それをどう買い戻していくかが、この業界の一番の課題だと思っていました。その後、僕がトップリーダーとしてグループホームを立ち上げた時に「人としての当たり前」を実現すべく「生活支援」を全面的に展開しました。僕は「持てる力の限り頑張って生きて、人の世話にばっかりなるな」くらいに思っていましたが、その実践がテレビ放映された時は同業者から大バッシングを受けました。「認知症の人にご飯を作らせている」とか「施設に鍵をかけていない」とか。福祉の業界はまだまだ当たり前ではないなと思いました。

―どうやって残存能力を引き出すのでしょうか。

人間は日々変化していくことに面白さがあって、変化することを僕は信頼していて、その可能性にかける。僕はしゃべれない人に「本当にしゃべれない？」というところからスタートするんです。いろいろアプローチして最後に歌ったりされると、周りの人はびっくりします。

僕らの仕事は「なんでや」って考えないほうが楽。「廊下をうろうろ＝徘徊」で終わらせるほうが楽です。でも「今、Aさんの心模様はどうかな？」と可能性を整理し、一つ一つ消去し「じゃあこれかな？」と考える。「かな？」くらいしか分からないけど、一番大事なのは、その過程で僕がAさんのことを考えていることなんです。

こちらの関わる量と質で相手の受ける量と質も変わるから、変化が起こっても何も不思議はないんです。人間は環境の生き物で「入居者の環境＝僕」、僕がどれだけ関われるかによって相手は変わる。だからご家族が「やっぱり違うわね、この姿は何十年か前の姿みたい」って言われて初めて、専門職・介護職としての価値がある。そこに対するプライドと誇り、ご家族と暮らされていた時と同じだったら、僕的には嫌だっていう思いがありますね。

―「注文をまちがえる料理店」はどのような思いから生まれたのですか。

認知症の人でも、できる能力と働く意欲があって少しの支えがあればできるのに、それを発揮する環境がない、なんとか実現する場を作りたいとずっと思っていました。

発起人に元テレビ局のディレクターがいるのですが、取材でグループホームに来ていたある日のメニューがハンバーグに決まり、買い物に行き調理して、出てきたのが餃子だったそうです。彼は「あれ？ハンバーグじゃ？」って言いかけたらしいんですが、疑問を持っているのは自分だけで誰も疑問に思っていないと、ハッとしたそうです。

それから3年くらい経って、ずっと思っていた認知症の人たちの働く場の話を彼にしたら「注文をまちがえる料理店やりませんか？」って言われて、そこからスタートしました。実行委員会で大事にしたことは、本格的な料理店であること、それとおしゃれ感、介護には必要な発想だと思うのです。昨年6月にプレ企画、9月に本番をやりました。

注文をまちがえる料理店　Facebookより

―映像を拝見しましたが、皆さん明るい顔で働かれていましたね。

誰もが「これだ」って思うものに出会えたときは輝いた表情になりますよね。「成し遂げた」そんな表情じゃないですかね。「一流の飲食」と「認知症の支援のプロ」がコラボレーションすることで成し遂げられたことです。「注文をまちがえる料理店」は僕だけでもできなかったし、飲食のプロだけでもできなかったと思います。マーケティングからデザイン、飲食、その他いろいろな一流のプロが力を合わせたら、社会はポンって変わっちゃうと思います。そういう土壌はできてきたかなと感じています。

今年、注文をまちがえる料理店を法人化し、関わってくださった方々の思いを守り、継続的に取り組むことにしました。岡山や京都、愛知や北海道など、同じような志でそれぞれの地域のアイデンティティや思いでやろうと具体的に動き出している人達が全国にいるので、できるだけ会って応援していきたいと思っています。

―福祉業界を取り巻く情勢は厳しいですが、業界への思いやメッセージをお願いします。

認知症は、自分の意思を行動に移すことはできるけれどやり遂げられない状態です。1、2歳の子どもも同じです。子育ては家族や保育士など24時間体制で人が関わります。認知症はそういう仕組みがなく、自宅で生活を続けることは、特に動ける人の場合難しいです。グループホームや特養などに移さざるを得なくなります。そこでの豊かな生活「人として当たり前」の暮らしを追及する姿勢を大事にしたいです。

福祉に限らず仕事は、職業的好奇心を持てるかが大事だと思います。職場に一歩入ったら職業人としても気持ちを切り替える。職業人としてケアを必要とする人と関わる意識をどう高め、自分の中できちんと育んでいくことが大事だと思います。

職場環境を整備しても、時間が経てば人間の意識は下がるので、職員の状態を早くキャッチして気に掛けることも必要です。でも、介護業界に人が来なくなって他人を気に掛ける余裕もなく、現場は疲弊している感じがして、今までの仕組みでは良くないのかとも思います。

街にグループホームができ、スーパーに買い物に行く認知症の人がいる。それが住民にとっても普通の光景になっていく。それを描いてどうやったらできるかを考えてくれる職員を作っていくかが必要で、そういうメッセージを出し続けていかないといけないと思っています。

介護用具 デイサービス・ふぁいん
レンタル・販売 住宅リフォーム
手すり1本からお取り付けします。
介護保険対応のカタログをお送りします。
「10月1日」は福祉用具の日です。
Silver
HOXON シルバーホクソン
〒332-0032　川口市中青木2−22−34
フリーダイヤル 0120-65-4649
介護保険指定事業者番号1170200222

福祉用具貸与・販売／住宅改修
訪問介護サービス
一級建築士事務所(登録 第10264号)
建設業許可番号 許可(般-21)第64152号
笑顔を届けて30年
福祉のニッカ
専門相談員が心のこもった相談に応じます
介護保険事業所番号 1171200213
日科ミクロン株式会社 0120-002940（マルマルフクシフ）
三郷営業所／三郷市早稲田3-8-1　流山営業所／流山市平和台3-2-41　葛飾営業所／葛飾区亀有4-25-8　洗浄消毒センター／三郷市早稲田8-25-6
彦成ヘルパーステーション／三郷市彦成3-7-12-101　彦成介護相談室／三郷市彦成3-7-12-101　早稲田介護相談室／三郷市早稲田3-8-1　本　社／三郷市早稲田3-16-5

掲載広告募集中!お問い合わせは地域連携課まで　TEL 048-822-1248